

全国の火山活動状況（1982年1月～3月）

気象庁地震課火山室

気象庁が常時観測を実施している精密観測4火山については、1982年1月以降3月末までの活動状況を、普通観測13火山とその他の火山については、報告をうけたものについて状況を要約した。

火山情報発表状況を第1表に、全国火山活動状況を第2表に示す。

第1表 火山情報発表状況（1982年1～3月）

情 報 \ 火 山 名	桜 島	阿 蘇 山	浅 間 山	伊 豆 大 島	三 宅 島	霧 島 山
定 期	3	3	3	3	1	
臨 時						1
火 山 活 動						

第2表 全国火山活動概況（1982）

Table 2. Volcanic Activity in Japan (1982)

Month \ Volcano	1	2	3
Sakurajima	▲	▲	▲
Asamayama	△		
Meakandake			△
Usuzan	△	△	△
Kirishimayama	△	△	△
Suwanosejima	▲	▲	
Fukutoku-Oka-no-Ba	△	△	△
Fukujin seamount	△		△

▲ Eruption

△ Anomaly

桜 島

火山性地震回数は1981年12月を底に毎月増加を続け、噴火回数も多く3月は特に活発であった(第3表)。しかし小規模のものが多く、特に被害を伴う噴火は発生しなかった。なお、1982年1月から従来の爆発回数のほかに、新たに爆発的でない噴火を加えたものを噴火回数として記録することとなった。ただし第3表でかっこ内で示す爆発回数は従来と同じ基準で観測したものである。

第3表 桜島火山観測資料

月	1982/ 1	2	3
噴火回数	34(27)	25(15)	70(47)
地震回数	2586	5261	5632

() 内 : 爆発回数

主な爆発とその状況は次のとおり。

- ・1月16日21時48分と20日21時22分の爆発は、爆発音・空振ともに大きく、前者では爆発音が鹿屋付近まで聞こえ、後者では多量の噴石を5合目付近まで飛ばし、火柱が200mの高さに上がった。
- ・3月28日4時29分の爆発は爆発音と空振を伴い、多量の噴石を5合目付近まで飛ばし、火柱が火口上200mの高さに上がり、気象台で鳴動が聞かれた。

阿 蘇 山

中岳第1火口は引き続き全面湯だまりとなり、ときどき弱い噴湯現象が観測される程度で穏やかに経過した。ただ1月2日には火口付近が震源と思われる火山性地震が4回発生したのと時期を合わせ、薄い緑色をした湯だまりが一時灰色となった。

赤外放射温度計による湯だまりの表面温度観測結果は次のとおり。

月/日	1/6	2/11	3/11
温度(°C)	43*	44	46

* 湯気のためやや不正確

地震回数の月別推移は第4表のとおりで、穏やかに経過した。

第4表 阿蘇火山観測資料

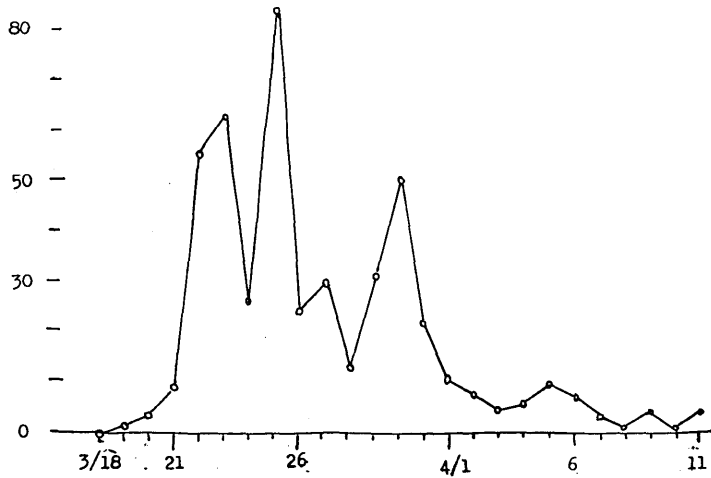
月	1982/1	2	3
地震回数	26	21	11
孤立型微動回数 (0.5 μ 以上)	16	11	13
連続微動平均振幅 (μ)	0.0	0.0	0.0

浅 間 山

浅間山の火山性地震は1月17日4時ごろから急に増加し、同日11~12時のピークには1時間にB点で33回観測されたが、19日15時ごろにはほぼ平常状態に復した。これらの地震のA点における最大振幅は17日の5.5、5.4 μ の2個が目立つ程度で、ほかは比較的小さかった。また特に震源の深い地震も現れなかった。17日の回数はA点132回、B点354回、C点351

第5表 浅間火山観測資料

観測点	月	1982/1	2	3
A		232	74	87
B		1199	563	383
C		1076	477	353



第 2 図 雌阿寒岳火山性地震回数日別推移 (1982)

Fig. 2 Daily number of volcanic earthquakes in Meakandake Volcano (1982)

有 珠 山 (室蘭地方気象台 報告)

噴煙活動も特に異常は認められず、表面活動は平穏に経過した。有珠山 A 点における地震回数の月別推移は次のとおり (カッコ内は有感相当回数)。3 月の回数は 1977 年有珠山噴火後はじめての 100 回以下となり、1～3 月合計も 1981 年 10～12 月合計 1044 (211) 回より減少した。

月	1982/1	2	3	計
地震回数	496 (124)	231 (50)	79 (17)	806 (191)

三 宅 島 (三宅島測候所 3 月 8 日火山情報)

3 月 4 日、雄山の現地観測を実施したが、噴気地帯の噴気量は前回と比較してやや多目、噴気温度や地中温度は多少の高低はあるが、異常はなかった。噴気地帯の炭酸ガスは 4.2 % で、他のガスは認められなかった。

火山性地震回数は 1 2 月 2 回、1 月 6 回、2 月 3 回で、三宅島近海の地震も含まれている。

霧 島 山 (鹿児島地方気象台 2 月 16 日火山情報)

新燃岳火口は 1981 年 12 月の現地観測で噴気温度が 1979 年 4 月以来の最高となったため、1982 年 1～3 月に臨時観測を実施した。新燃岳火口内第 6 火口の噴気温度は、1 月 8 日に 197℃、2 月 15 日には 206℃、3 月 13 日には 208℃が観測され、これまでの最高を次々更新した。新燃岳外壁の第 2 火口の噴気温度は 1 月 8 日 148℃、2 月 15 日 150℃、3 月 13 日 149℃であった。第 6 火口の噴気孔の長径は 1 月 11 m であったものが、2 月 15 日の観測時には 12.5 m に拡大しており、噴気孔からは硫黄の流出がみられ、また真っ黒いタール状の噴出物が 30 m の範囲に飛散した跡があり、第 6 火口の北側の噴気

孔で、土砂噴出現象が行われていた。

火山性地震回数は次のとおりで、特に異常は認められなかった。

月	1981/12	1982/1	2	3
回数	14	14	9	5

諏訪之瀬島（諏訪之瀬島分校 報告）

1982年1月 爆発的噴火（2日，6日，23日，25～28日）

2月 " （3日，6～8日，13～19日，22～26日）

3月 " （9～11日，28～31日）

海底火山（海上保安庁水路部 報告）

福徳岡の場

変色水視認（1月12日，19日，2月9日，28日，3月16日）

福神海山

変色水視認（1月19日，3月16日）